

# 苫小牧市立小中学校規模適正化基本方針

平成21年12月

苫小牧市教育委員会

## 目 次

|                                |    |
|--------------------------------|----|
| はじめに .....                     | 1  |
| 1 苫小牧市の小中学校の現状 .....           | 2  |
| (1) 児童生徒数の推移及び将来推計             |    |
| (2) 学校数及び地域ごとの児童生徒数の推移         |    |
| (3) 学校規模の状況                    |    |
| (4) 学校施設の状況                    |    |
| 2 学校教育環境の整備・充実 .....           | 5  |
| 3 学校適正規模の基本的な考え方 .....         | 6  |
| (1) 学校適正規模の基本的な考え方             |    |
| (2) 学校規模によるメリットとデメリット          |    |
| (3) 苫小牧市の学校適正規模等               |    |
| 4 学校適正配置の基本的な考え .....          | 8  |
| (1) 学校の統廃合                     |    |
| (2) 通学区域の見直し                   |    |
| (3) 学校の分離・新設                   |    |
| (4) 適正配置の対象外地区                 |    |
| 5 苫小牧市における学校適正配置 .....         | 9  |
| (1) 適正配置の対象学校                  |    |
| (2) 適正配置の検討時期                  |    |
| 6 地域区分ごとの適正配置 .....            | 10 |
| (1) ブロック区分の考え方                 |    |
| (2) ブロック区分の対象校                 |    |
| (3) ブロック別小中学校児童生徒数の推移          |    |
| 7 適正配置の進め方 .....               | 12 |
| (1) 市長部局との連携                   |    |
| (2) 小中学校規模適正化地域プランの策定          |    |
| (3) 保護者への説明                    |    |
| (4) 準備会の設置                     |    |
| 8 その他 .....                    | 12 |
| (1) 基本方針の見直し                   |    |
| (2) 児童生徒数の推計                   |    |
| (3) 既存の学校施設の有効活用               |    |
| ● 資料1-1 小中学校児童生徒数・学級数の推移       |    |
| 資料1-2 小学校児童数の推移・小学校学級数の推移（学校別） |    |
| 資料1-3 中学校生徒数の推移・中学校学級数の推移（学校別） |    |
| 資料2 苫小牧市における小中学校の築別区分          |    |
| 資料3 苫小牧市小中学校適正配置のためのブロック区分     |    |
| 資料4 苫小牧市小中学校規模適正化検討委員会委員名簿     |    |

## はじめに

少子高齢化の進展や人口の減少は、日本の社会全体に影響を及ぼし、特に子どもの減少による小中学校の小規模化は、学校運営や教育効果等にさまざまな影響を与えるため、全国的な課題となっております。

本市においても、児童・生徒数は、ピーク時だった昭和57年から昭和62年代までと比べると4割以上減少し、以前は大規模校だった学校が小規模化してきており、今後、ひとつの学年が1学級となる学校が増えることも見込まれます。一方で、宅地開発が進んでいる東部地域では児童生徒数が急増し、相次いで学校が新設され、さらに、大規模化している学校も存在しております。

また、施設面では、今後15年間で建築後45年から50年を経過する学校が全体の半数以上となることから、いずれは老朽化による改修・改築が必要になることが確実となり、これまでと同じ数の学校を維持しつつ改築等続けることは、大きな財政負担が生じることとなります。

これまでは、それぞれの地域に根ざし、地域が育んできた学校ですが、これからはこうした社会の変化を受け、望ましい教育環境を整えるための適正配置を進めることが必要です。

こうしたことから、苫小牧市教育委員会は、小中学校の学校規模と適正配置に取り組むための基本的な考え方や方策等を示した「苫小牧市立小中学校規模適正化基本方針」としてまとめることとしました。

なお、この基本方針の策定に当たり、熱心な議論を重ね、貴重なご意見を賜りました苫小牧市小中学校規模適正化検討委員会の委員の皆様へ心より感謝申し上げます。

今後、本基本方針に基づき具体的な取組みや対象となる学校を選定し、当該校の児童生徒、保護者、地域住民との理解を得ながら適正配置を進めてまいります。

# 1 苫小牧市の小中学校の現状

## (1) 児童生徒数の推移及び将来推計

児童生徒数については、小学校では昭和57年の児童数16,604人をピークに、平成21年度は9,309人、中学校では昭和62年の生徒数8,358人をピークに、平成21年度は4,761人となっています。(資料1-1参照)

苫小牧市の出生数についても、昭和49年の2,920人をピークに減少が続いており、平成20年では1,537人となっております。

今後の児童生徒数は、全体的に横ばい状態で推移し、将来的に大幅な増加は見込まれませんが、一方では東部地区が宅地開発でここ数年、著しく増加するという地域差が発生していく傾向が見られます。

### ■児童生徒数の推移

|     | S49年   | S53年   | S58年   | S63年   | H5年    | H10年   | H15年   | H20年  | H21年  |
|-----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|
| 児童数 | 12,061 | 13,813 | 16,538 | 14,646 | 13,128 | 11,190 | 10,058 | 9,370 | 9,309 |
| 生徒数 | 5,461  | 6,245  | 7,084  | 8,232  | 7,337  | 6,586  | 5,281  | 4,837 | 4,761 |

### ■児童生徒数の推計

\*山なみ分校は除く

|     | H22年  | H23年  | H24年  | H25年  | H26年  | H27年  |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 児童数 | 9,308 | 9,390 | 9,369 | 9,449 | 9,398 | 9,342 |
| 生徒数 | 4,790 | 4,773 | 4,818 | 4,764 | 4,833 | 4,850 |

\*推計は平成21年度5月1日現在の住民基本台帳と児童数を基に作成

## (2) 学校数及び地域ごとの児童生徒数の推移

昭和23年に人口3万3千人でスタートした苫小牧市は、転入や出生により順調に人口を伸ばし、今日17万人を超える都市に発展してきました。その間、都市基盤の整備など積極的なまちづくりを進めながら、教育に関しても市街地の拡大に伴い児童生徒数の増加に合わせ小中学校を設置してきました。

小学校は、児童数がピーク時の昭和57年度で19校、中学校は、生徒数がピーク時の昭和62年度で12校になりましたが、その後、市全体の児童生徒数が減少しているにもかかわらず学校数が増加しております。

これは、郊外の宅地開発が進み、人口のドーナツ化現象が起き、郊外に児童生徒が移動したため、新たな学校の建設が必要となったもので、現在の学校数は小学校が23校、中学校が15校の計38校となっています。

■小学校数及び地区ごとの児童数の推移と推計（資料1参照）

|      | S49年 | S53年   | S58年   | S63年   | H5年    | H10年   | H15年   | H20年   | H21年  | H27年  |       |
|------|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|
| 小学校数 | 14   | 16     | 19     | 20     | 20     | 21     | 22     | 23     | 23    | 23    |       |
| 児童数  | 中心地  | 5,369  | 5,048  | 4,959  | 3,984  | 3,045  | 2,190  | 1,749  | 1,603 | 1,543 | 1,710 |
|      | 中央区  | 2,736  | 3,579  | 4,887  | 4,525  | 4,276  | 2,998  | 2,538  | 2,260 | 2,197 | 2,207 |
|      | 西地区  | 1,752  | 2,935  | 4,266  | 3,895  | 3,556  | 3,483  | 3,060  | 2,443 | 2,381 | 1,885 |
|      | 東地区  | 2,204  | 2,251  | 2,426  | 2,242  | 2,251  | 2,519  | 2,711  | 3,064 | 3,188 | 3,540 |
|      | 計    | 12,061 | 13,813 | 16,538 | 14,646 | 13,128 | 11,190 | 10,058 | 9,370 | 9,309 | 9,342 |

- ・中心地～苫小牧西小、苫小牧東小、若草小、北光小、清水小 \* 普通学級のみ
- ・中央区～緑小、大成小、糸井小、北星小、豊川小
- ・西地区～錦岡小、樽前小、日新小、澄川小、明德小、泉野小
- ・東地区～勇払小、植苗小、沼ノ端小、美園小、明野小、拓勇小、ウトナイ小

■中学校数及び地区ごとの生徒数の推移と推計（資料1参照）

|      | S49年 | S53年  | S58年  | S63年  | H5年   | H10年  | H15年  | H20年  | H21年  | H27年  |       |
|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 中学校数 | 10   | 11    | 12    | 12    | 13    | 14    | 14    | 14    | 15    | 15    |       |
| 生徒数  | 中心地  | 2,010 | 1,926 | 1,698 | 1,624 | 1,205 | 954   | 696   | 612   | 625   | 638   |
|      | 中央区  | 2,767 | 2,683 | 2,704 | 3,071 | 2,414 | 2,072 | 1,570 | 1,380 | 1,370 | 1,363 |
|      | 西地区  | 264   | 1,193 | 2,169 | 2,886 | 2,667 | 2,383 | 1,919 | 1,659 | 1,578 | 1,318 |
|      | 東地区  | 420   | 443   | 513   | 651   | 1,051 | 1,177 | 1,096 | 1,186 | 1,188 | 1,531 |
|      | 計    | 5,461 | 6,245 | 7,084 | 8,232 | 7,337 | 6,586 | 5,281 | 4,837 | 4,761 | 4,850 |

- ・中心地～苫小牧東中、弥生中、開成中 \* 山なみ分校は除く
- ・中央区～光洋中、啓北中、和光中、
- ・西地区～凌雲中、明倫中、啓明中、緑陵中、
- ・東地区～勇払中、植苗中、沼ノ端中、明野中、青翔中

(3) 学校規模の状況

小学校全体の学級数は、昭和60年が426学級と最も多く、そのうち25学級以上の学校は20校中7校、12学級未満の学校は2校でした。その後、児童数の減少により平成21年度では、全体で310学級となり25学級以上の学校は1校、12学級未満の学校は8校となっております。

中学校全体の学級数は、平成3年が207学級と最も多く、そのうち19学級以上の学校は12校中6校で、18学級以下の学校は6校でした。その後、生徒数の減少により平成21年度では、全体で149学級となり19学級以上の学校はなくなり、8学級以下の学校が5校となっております。

小学校及び中学校ともに、今後の学校規模は児童生徒数が減少したままで推移していくことが予想され、各校区内の人口移動状況によっては小規模化していく学校が増えるものと思われます。

■小学校規模別学校数の推移と推計

|                  |         | S60年 | H3年 | H9年 | H15年 | H21年 | H27年 |
|------------------|---------|------|-----|-----|------|------|------|
| 学校数              |         | 20   | 20  | 21  | 22   | 23   | 23   |
| 総学級数             |         | 426  | 395 | 355 | 322  | 310  | 312  |
| 学<br>校<br>規<br>模 | 1～5学級   | 1    | 1   | 1   | 1    | 1    | 1    |
|                  | 6～11学級  | 1    | 1   | 2   | 5    | 7    | 4    |
|                  | 12～18学級 | 6    | 8   | 10  | 11   | 11   | 16   |
|                  | 19～24学級 | 5    | 3   | 4   | 4    | 3    | 1    |
|                  | 25～30学級 | 4    | 6   | 4   | 1    | 0    | 0    |
|                  | 31学級以上  | 3    | 1   | 0   | 0    | 1    | 1    |

\*普通学級のみ

■中学校規模別学校数の推移と推計

|                  |         | S60年 | H3年 | H9年 | H15年 | H21年 | H27年 |
|------------------|---------|------|-----|-----|------|------|------|
| 学校数              |         | 12   | 12  | 13  | 14   | 15   | 15   |
| 総学級数             |         | 194  | 207 | 189 | 153  | 149  | 152  |
| 学<br>校<br>規<br>模 | 1～2学級   | 0    | 0   | 0   | 0    | 0    | 0    |
|                  | 3～8学級   | 2    | 4   | 4   | 4    | 4    | 5    |
|                  | 9～12学級  | 2    | 1   | 1   | 4    | 7    | 5    |
|                  | 13～18学級 | 2    | 1   | 4   | 6    | 4    | 5    |
|                  | 19～24学級 | 5    | 2   | 3   | 0    | 0    | 0    |
|                  | 25学級以上  | 1    | 4   | 1   | 0    | 0    | 0    |

\*山なみ分校は除く

(4) 学校施設の状況

市内にある小中学校施設で、現在、50年を超過した校舎は4校あります。一般的に鉄筋コンクリート造の建物は、建築後40～50年を経過すると劣化が急速に進むといわれます。今後、10年間で改修・改築が必要な学校は15校となると考えます。

さらに、学校施設179棟のうち耐震性に問題がないのは104棟と全体の48.6%（平成21年4月1日現在）となっており、子どもたちが安全で安心して学べるよう耐震化等の施設整備も急務となっています。

\* 学校の改築（最近の事例）

- ・平成11年……苫小牧東小学校屋体  
沼ノ端中学校校舎
- ・平成13年……苫小牧西小学校校舎
- ・平成16年……若草小学校校舎
- ・平成20年……光洋中学校校舎

\* 学校の新設

- ・平成4年……明野中学校
- ・平成6年……明野小学校
- ・平成10年……緑陵中学校
- ・平成14年……拓勇小学校
- ・平成19年……ウトナイ小学校
- ・平成21年……青翔中学校

■学校の建築年数の状況（校舎のみ）

| 築年数     | 小学校                                | 中学校                            | 校数計 |
|---------|------------------------------------|--------------------------------|-----|
| 50年以上   | 苫小牧東小、緑小、北光小、樽前小                   |                                | 4   |
| 40年～49年 | 大成小、清水小、美園小、錦岡小<br>沼ノ端小            | 苫小牧東中、弥生中、和光中、<br>凌雲中、沼ノ端中、啓北中 | 11  |
| 30年～39年 | 苫小牧西小、日新小、糸井小、北星小、<br>澄川小、勇払小、植苗小中 | 明倫中、勇払中、開成中                    | 10  |
| 20年～29年 | 豊川小、明德小、泉野小、                       | 啓明中                            | 4   |
| 10年～19年 | 明野小、                               | 緑陵中、明野中                        | 3   |
| 10年未満   | ウトナイ小、若草小、拓勇小                      | 光洋中、青翔中                        | 5   |

## 2 学校教育環境の整備・充実

子どもたちを取り巻く環境は、高度情報化、価値観の多様化、少子高齢化などの社会状況の著しい変化により複雑な様相をみせております。このような中、学校教育の果たす役割として重要なことは、子どもたちに自ら主体的に生きるための基礎・基本となる資質、能力を確実に定着させるとともに、自ら学び考え、自己と他者、社会とのつながりを意識しながら、社会の中で様々な人々と共生社会を創っていくことができる知、徳、体のバランスがとれた人格を育てていくことです。

学校での集団活動を通して、他人との交流を通じて学び、多様な個性と出会い、磨きあいながら豊かな心を育むことが可能な教育環境の整備が必要です。

こうしたことから、学校に一定の児童生徒数や学級数を確保することが重要となります。

\* 苫小牧市教育委員会では、次のような苫小牧市教育推進の指標、総括重点を掲げております。

### 苫小牧市教育推進の指標

未知なるものに果敢に挑戦する自立の精神にあふれ、連帯と共生で豊かな心と活力を育む人を育てる。（自立・連帯・共生）

### 苫小牧市教育推進の総括重点

- 「自立」 ～ 社会の変化に柔軟に対応し、主体的に学ぶ意欲と豊かな人間性を持ち、郷土を支える人を育てる。
- 「連帯」「共生」 ～ 人と人が連帯する活力のある学びの環境づくりと、学びを生かしたひとづくり、まちづくりに努める。

### 3 学校適正規模の基本的な考え方

学校教育を行なう上での学校規模は、学習、生活面と教育指導面などに様々なメリット、デメリットが生じます。

小規模校の場合、児童生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導ができるというメリットが挙げられますが、これらのメリットは小規模校でなければ達成できないというわけではなく、一定規模の学校においても可能であると考えます。一方で、様々な集団の編成や多様な学習活動の展開が困難となる場合が発生し、集団の中で切磋琢磨する機会が少なくなります。

大規模校の場合、多くの友だちや教師にめぐり合え、人間関係が豊かになることや活気ある学校経営が行なえるなどのメリットが挙げられますが、一方で、児童生徒の増加に伴い、少人数指導を行なう際の教室の確保や体育館、校庭などの施設面に余裕がなくなり、教育活動に制約を生じる場合があります。

これらのことから学校を一定の規模とすることにより、子どもたちの教育効果をより高められるものと考え、学校の適正規模の基本的な考え方や望ましい規模を示すものとします。

#### (1) 学校適正規模の基本的な考え方

- ① 多様な人間関係を通して、集団のルールを学び、社会性を養うとともに、自らの個性や能力を伸長させることが期待できる学校規模であること。
- ② クラス替えにより、児童生徒間の人間関係の固定化を防ぐことができるとともに、児童生徒の活力の増進と学校の活性化を図ることができる学校規模であること。
- ③ 中学校は、教科担任制であることから、各教科に専門の教員を確保することが必要であり、特に授業時数の多い5教科については、複数の教員の確保ができる学校規模であること。
- ④ 一定の教員数の確保により、教員が児童生徒と向き合う時間が増えるとともに、教員同士が互いに切磋琢磨でき、校務分掌の運営に大きな負担を生じない学校規模であること。
- ⑤ 子どもたちのニーズに応じた多様な部活動やクラブ活動を確保することができる学校規模であること。

#### (2) 学校規模によるメリットとデメリット

次に掲げるメリット・デメリットは、学校の適正配置に関して都道府県・市町村が作成している計画等を参考に文部科学省において作成したもので、すべての学校が規模に応じこのようになるものではありません。一般的な傾向として示しています。

○:メリットと考えられる点 ●:デメリットと考えられる点

|                  |        | ◀ 小規模化  | ▶ 大規模化  |
|------------------|--------|---|---|
| 学<br>習<br>活<br>動 | 学<br>習 | ○児童生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。                                 | ○集団の中で、多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、一人ひとりの資質や能力をさらに伸ばしやすい。 |
|                  | 活<br>動 | ●集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい。<br>●学級間の相互啓発がなされにくい。 | ●全教職員による各児童・生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい。                                |



|      |  |   |
|------|--|---|
| 指導   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●児童生徒数、教職員数が少ないため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態を取りにくい。</li> <li>●中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しにくい。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童生徒数、教員数がある程度多いため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態を取りやすい。</li> <li>○中学校の各教科の免許を持つ教員を配置しやすい</li> </ul>  |
|      | <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校行事や部活動等において、児童生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい。</li> <li>●運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい。</li> <li>●部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生じやすい。</li> <li>○様々な種類の部活動等の設置が可能となり、選択の幅が広がりやすい。</li> <li>●学校行事や部活動等において、児童・生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しにくい。</li> </ul>                                    |
| 生活関係 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童生徒相互の人間関係が深まりやすい。</li> <li>○異学年間の縦の交流が生まれやすい。</li> <li>●クラス替えが困難なことなどから、人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。</li> <li>●集団内の男女比に極端な偏りが生じやすくなる可能性がある。</li> <li>●切磋琢磨する機会等が少なくなりやすい。</li> </ul>                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>○クラス替えがしやすいことなどから、豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい。</li> <li>○切磋琢磨すること等を通じて、社会性や協調性、たくましさ等を育みやすい。</li> <li>●学年内・異学年間の交流が不十分になりやすい。</li> </ul>  |
|      | <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。</li> <li>●組織的な体制が組みにくく、指導方法等に制約が生じやすい。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校全体での組織的な指導体制を組みやすい。</li> <li>●全教職員による各児童生徒一人ひとりの把握が難しくなりやすい。</li> </ul>   |
| 学校運営 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい。</li> <li>○学校が一体となって活動しやすい。</li> <li>●教職員数が少ないため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた配置を行いくい。</li> <li>●学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いにくく、一人に複数の校務分掌が集中しやすい。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○教員数がある程度多いため、経験、教科、特性などの面でバランスのとれた教職員配置を行いやすい。</li> <li>○学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いやすい。</li> <li>○校務分掌を組織的にくいやすい。</li> <li>●教職員相互の連絡調整が図りづらい。</li> </ul> |
|      | <ul style="list-style-type: none"> <li>○施設・設備の利用時間等の調整が行いやすい。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>●特別教室や体育館等の施設・設備の利用の面から、学校活動に一定の制約が生じる場合がある。</li> </ul>  |
| その他  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者や地域社会との連携が図りやすい。</li> <li>●PTA活動等における保護者一人当たりの負担が大きくなりやすい。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○PTA活動等において、役割分担により、保護者の負担を分散しやすい。</li> <li>●保護者や地域社会との連携が難しくなりやすい。</li> </ul>   |

### (3) 苫小牧市の学校適正規模等

学校適正規模のあり方については、適正規模の基本的な考え方を踏まえながら地域の実情も考慮することが必要なため、一律の基準ではなく標準的で望ましい規模とします。

小学校は、少なくとも各学年複数が確保できる規模から、より多様な個性と出会うよう効果的

なクラス替えができ、さらに学習・生活面、教育指導面、学校経営面等により高い教育効果が得られる24学級までの範囲が適正規模と考えます。

中学校は、教科担任制による教員の配置定数や学校経営の観点などから9学級から学習・生活面、教育指導面、学校経営面等により高い教育効果が得られる18学級の範囲が適正規模と考えます。

したがって、本市の標準的で望ましい学校規模は、次のとおりの区分とします。

|     | 過小規模 | 小規模    | 適正規模    | 大規模     | 過大規模   |
|-----|------|--------|---------|---------|--------|
| 小学校 | ～5学級 | 6～11学級 | 12～24学級 | 25～30学級 | 31学級以上 |
| 中学校 | ～2学級 | 3～8学級  | 9～18学級  | 19～24学級 | 25学級以上 |

\*学校教育法施行規則第41条

「小学校の学級数は、12学級以上18学級以下を標準とする。ただし、地域の実態その他により特別の事情があるときは、この限りでない。

中学校においても同規則79条により同規則41条が準用される。

でも同規則79条により同規則41条が準用される。

## 4 学校適正配置の基本的な考え方

学校の配置は、通学区域や通学距離、地域の拠点付近に位置するなど均衡が図られることが望ましいと考えますが、全ての学校をそのような位置に再配置し、学校の規模を適正化していくことは現実的に困難です。

したがって、現在の配置を基にして、望ましい学校の適正規模を確保するために、隣接する学校との「統廃合」及び「通学区域の見直し」などにより進めるものとします。

### (1) 学校の統廃合

隣接する複数の学校を統合し、一定規模を確保します。

### (2) 通学区域の見直し

- ① 適正規模に満たない学校については、隣接校に通学区域の一部を編入することとし、適正規模を超える学校については、通学区域の一部を隣接校の通学区域へ編入することを検討します
- ② 通学区域は、適正な学校規模の確保を前提としながら、通学距離、鉄道、幹線道路、河川などの地理的条件や地域コミュニティとの整合性などに配慮し検討します。
- ③ 通学距離は、統合後に増える地域が想定されますが、通学の安全確保を図りながら、徒歩で通学することを目安として考えます。

小学校でおおむね2km以内、中学校でおおむね4km以内とします。

\*義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令第4条

「通学距離が、小学校にあつてはおおむね4km以内、中学校にあつてはおおむね6km以内

であること」

### (3) 学校の分離・新設

適正規模を超える学校において、通学区域の見直しが困難で過大規模校化の状態が継続すると見込まれる場合には、学校の分離・新設について検討します。

### (4) 適正配置の対象外地区

小中学校の適正規模の観点では、適正配置の検討は市全域を対象としなければなりません。植苗地区、勇払地区、樽前地区にある学校については、通学区域等の立地条件や地域性等から当面对象としないこととします。しかし、今後、学校を取巻く環境に著しい変化があれば適正配置を検討することとします。

## 5 苫小牧市における学校適正配置

適正規模、適正配置の基本的な考え方にに基づき、それぞれの学校（地域）の事情や特殊性を十分考慮しながら、次のとおり学校の適正配置を推進します。

### (1) 適正配置の対象学校

小学校は11学級以下、31学級以上、中学校は8学級以下、25学級以上の規模になる学校を適正配置の検討が必要な対象学校の目安とします。これらの学校を含めた各地区の状況を分析したうえで、学校規模適正化の検討が必要な地域を選定します。

### (2) 適正配置の検討時期

#### ① 過小規模校

過小規模の学校は、その状態が長期間続く見込みがある場合は、速やかに近接する学校との統合の検討に着手します。

#### ② 小規模校

小規模の学校は、校舎等の改築時期などに統廃合や通学区域の見直しを検討します。

#### ③ 適正規模校

適正規模の学校は、基本的に現状を維持することとします。ただ、校舎等の改築時には将来的な児童生徒の推移と全市的なバランスのとれた学校配置を十分見極めたうえで、必要に応じ適正配置について検討します。

#### ④ 大規模校

大規模の学校は、将来の児童生徒数の動向を十分見極めたうえで、通学区域の見直し等を検討します。

#### ⑤ 過大規模校

過大規模の学校は、その状態が長期間続く見込みがある場合は、通学区域の見直しや学校の分離・新設を検討します。

## 6 地域区分ごとの適正配置

学校の適正規模・適正配置が全市的なバランスのなかで検討できるように、既存の小中学校区を基準にA～Eの5ブロックに区分します。なお、適正配置の検討のなかで必要に応じて、隣接するブロックとの調整を行いません。

### (1) ブロック区分の考え方

- ① 適正配置を検討するに当たって、徒歩で通学する距離や安全性が確保できる範囲とします。
- ② 現行の学校配置を基本とし、線路や工業地帯などで区切られる等わかりやすい範囲とします。
- ③ ブロック内の小学校と中学校の校区が他のブロックにまたがらない範囲とします。

### (2) ブロック区分の対象校

各ブロックの対象学校を次のとおりとします。

(資料2参照)

| ブロック | 対象小学校 (20校)       | 対象中学校 (13校) |
|------|-------------------|-------------|
| A    | 泉野小、澄川小、明德小、錦岡小   | 啓明中、緑陵中、凌雲中 |
| B    | 北光小、豊川小、北星小、日新小   | 明倫中、啓北中     |
| C    | 清水小、美園小、明野小、緑小    | 和光中、開成中、明野中 |
| D    | ウトナイ小、拓勇小、沼ノ端小    | 青翔中、沼ノ端中    |
| E    | 糸井小、大成小、西小、東小、若草小 | 光洋中、弥生中、東中  |

### (3) ブロック別小中学校児童生徒数の推移

平成21年度の現状及び平成27年度の推移は次のとおり

| ブロック | 小学校  |     |       |     |       |     | 中学校 |     |       |     |       |     |
|------|------|-----|-------|-----|-------|-----|-----|-----|-------|-----|-------|-----|
|      | 対象校  | 建築年 | 21年度  |     | 27年度  |     | 対象校 | 建築年 | 21年度  |     | 27年度  |     |
|      |      |     | 児童数   | 学級数 | 児童数   | 学級数 |     |     | 生徒数   | 学級数 | 生徒数   | 学級数 |
| A    | 泉野   | S60 | 422   | 14  | 395   | 12  | 啓明  | S57 | 362   | 11  | 320   | 10  |
|      | 澄川   | S54 | 596   | 18  | 460   | 14  | 緑陵  | H10 | 328   | 10  | 279   | 10  |
|      | 明德   | S58 | 265   | 9   | 173   | 6   | 凌雲  | S40 | 381   | 12  | 280   | 9   |
|      | 錦岡   | S41 | 504   | 17  | 397   | 12  |     |     |       |     |       |     |
|      | 計    |     | 1,787 | 58  | 1,425 | 44  | 計   |     | 1,071 | 33  | 879   | 29  |
| B    | 北光   | S31 | 375   | 12  | 363   | 12  | 明倫  | S52 | 507   | 15  | 439   | 13  |
|      | 豊川   | S56 | 395   | 13  | 411   | 14  | 啓北  | S37 | 462   | 13  | 400   | 12  |
|      | 北星   | S52 | 349   | 12  | 296   | 12  |     |     |       |     |       |     |
|      | 日新   | S47 | 568   | 18  | 455   | 15  |     |     |       |     |       |     |
|      | 計    |     | 1,687 | 55  | 1,525 | 53  | 計   |     | 969   | 28  | 839   | 25  |
| C    | 清水   | S40 | 276   | 11  | 342   | 12  | 和光  | S35 | 514   | 16  | 517   | 15  |
|      | 美園   | S43 | 439   | 14  | 540   | 17  | 開成  | S47 | 144   | 6   | 151   | 6   |
|      | 明野   | H6  | 404   | 12  | 373   | 12  | 明野  | H4  | 294   | 9   | 236   | 8   |
|      | 緑    | S33 | 662   | 20  | 704   | 21  |     |     |       |     |       |     |
|      | 計    |     | 1,781 | 57  | 1,959 | 62  | 計   |     | 952   | 31  | 904   | 29  |
| D    | ウトナイ | H19 | 708   | 21  | 595   | 18  | 青翔  | H21 | 270   | 9   | 596   | 18  |
|      | 拓勇   | H14 | 992   | 31  | 1,403 | 39  | 沼ノ端 | S40 | 518   | 15  | 589   | 16  |
|      | 沼ノ端  | S44 | 444   | 15  | 418   | 14  |     |     |       |     |       |     |
|      | 計    |     | 2,144 | 67  | 2,416 | 71  | 計   |     | 788   | 24  | 1,185 | 34  |
| E    | 糸井   | S50 | 230   | 8   | 286   | 12  | 光洋  | H20 | 394   | 12  | 446   | 13  |
|      | 大成   | S35 | 561   | 19  | 510   | 17  | 弥生  | S39 | 139   | 5   | 103   | 4   |
|      | 西    | S51 | 209   | 7   | 247   | 9   | 東   | S36 | 342   | 10  | 384   | 12  |
|      | 東    | S28 | 265   | 10  | 310   | 12  |     |     |       |     |       |     |
|      | 若草   | H17 | 418   | 14  | 448   | 15  |     |     |       |     |       |     |
|      | 計    |     | 1,683 | 58  | 1,801 | 65  | 計   |     | 875   | 27  | 933   | 29  |
| 合計   | 20校  |     | 9,082 | 295 | 9,126 | 295 | 13校 |     | 4,655 | 143 | 4,740 | 146 |

\*小学校は、平成21年度で小規模校は5校、過大規模校は1校となっています。

平成27年度は、小規模校2校、過大規模校1校と推計されます。

\*中学校は、平成21年度で小規模校2校、平成27年度は小規模校3校と推計されます。

## 7 適正配置の進め方

適正配置を推進するにあたっては、全市的な課題と位置付け市の財政状況を考慮するとともに、学校の持つ地域的な意義を踏まえ、市民、保護者、地域住民に十分な説明を行い、理解と協力を得ながら、次の手順で進めてまいります。

### (1) 市長部局との連携

教育委員会は、適正配置を進めるに当たっては、市の財政状況を十分考慮し、市長部局と連携を図り適正化を図るブロックを決定します。

### (2) 小中学校規模適正化地域プランの策定

小中学校規模適正化基本方針に基づき、適正化を図る当該ブロックについて将来の児童生徒数の推移を見極め、学校規模や教育環境を確認しながら、適正配置の対象校、具体的な方策、時期等を定める小中学校規模適正化地域プランを策定します。

### (3) 保護者への説明

この小中学校規模適正化地域プランの策定に当たっては、保護者や地域住民など適正化の必要性を十分説明し、意見要望等を踏まえたものとしします。

### (4) 準備会の設置

小中学校規模適正化地域プランに基づき適正化にあたっては、保護者や学校の代表などからなる準備会を設置し、統廃合への円滑な移行に向けて協議します。

## 8 その他

### (1) 基本方針の見直し

本基本方針は、今後の社会情勢や教育制度の変化等方針に影響を与える変化が生じた場合には、必要に応じ見直します。

### (2) 児童生徒数の推計

小中学校の適正規模等に関する児童生徒数は、平成21年5月1日現在の人数を基に平成27年までを推計しておりますが、推計は毎年ローリングします。

\*本基本方針に掲げた児童生徒数は、苫小牧市における平成21年5月1日現在の住民基本台帳から0歳から5歳までの幼児数と児童数を基に苫小牧市教育委員会で作成しました。

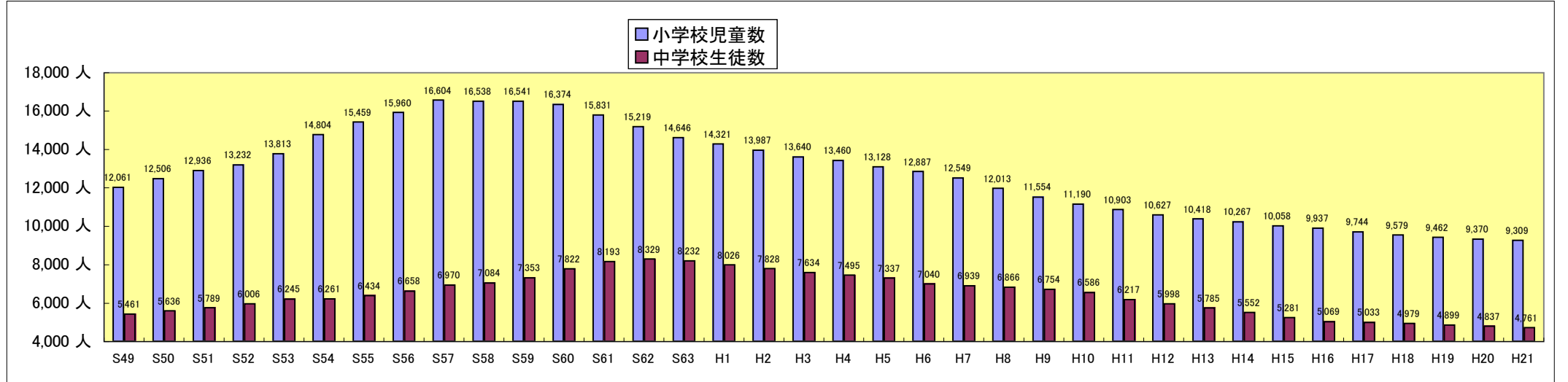
**(3) 既存の学校施設の有効活用**

適正化によって廃止する学校の建物や土地については、市民ニーズ等を踏まえ、市民の貴重な財産として有効活用を図ります。

# 小・中学校 児童生徒数学級数の推移

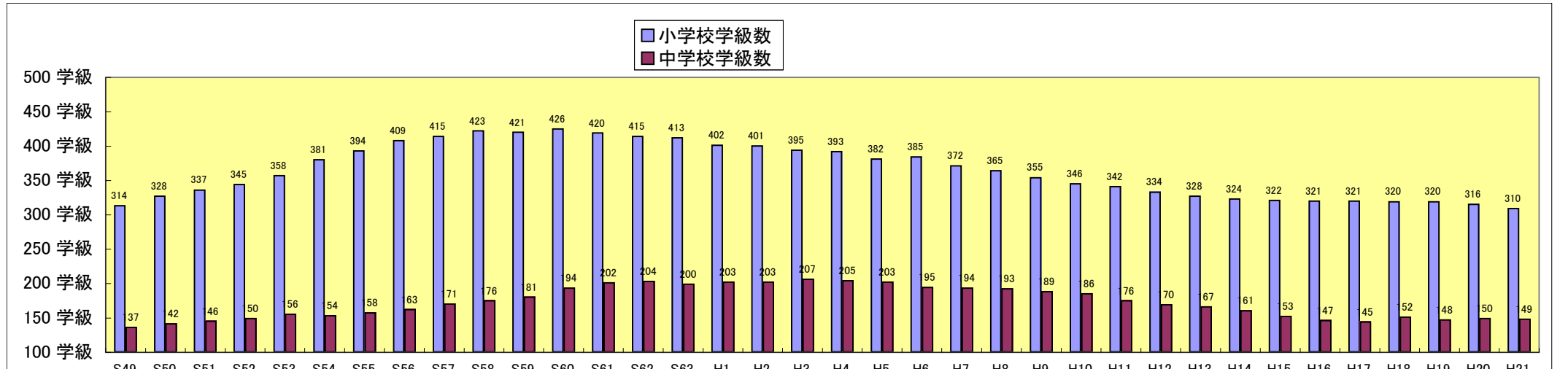
児童生徒数の推移

| 該当年度   | S49    | S50    | S51    | S52    | S53    | S54    | S55    | S56    | S57    | S58    | S59    | S60    | S61    | S62    | S63    | H1     | H2     | H3     | H4     | H5     | H6     | H7     | H8     | H9     | H10    | H11    | H12    | H13    | H14    | H15    | H16   | H17   | H18   | H19   | H20   | H21   |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 小学校児童数 | 12,061 | 12,506 | 12,936 | 13,232 | 13,813 | 14,804 | 15,459 | 15,960 | 16,604 | 16,538 | 16,541 | 16,374 | 15,831 | 15,219 | 14,646 | 14,321 | 13,987 | 13,640 | 13,460 | 13,128 | 12,887 | 12,549 | 12,013 | 11,554 | 11,190 | 10,903 | 10,627 | 10,418 | 10,267 | 10,058 | 9,937 | 9,744 | 9,579 | 9,462 | 9,370 | 9,309 |
| 中学校生徒数 | 5,461  | 5,636  | 5,789  | 6,006  | 6,245  | 6,261  | 6,434  | 6,658  | 6,970  | 7,084  | 7,353  | 7,822  | 8,193  | 8,329  | 8,232  | 8,026  | 7,828  | 7,634  | 7,495  | 7,337  | 7,040  | 6,939  | 6,866  | 6,754  | 6,586  | 6,217  | 5,998  | 5,785  | 5,552  | 5,281  | 5,069 | 5,033 | 4,979 | 4,899 | 4,837 | 4,761 |



学級数の推移

| 該当年度   | S49 | S50 | S51 | S52 | S53 | S54 | S55 | S56 | S57 | S58 | S59 | S60 | S61 | S62 | S63 | H1  | H2  | H3  | H4  | H5  | H6  | H7  | H8  | H9  | H10 | H11 | H12 | H13 | H14 | H15 | H16 | H17 | H18 | H19 | H20 | H21 |
|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 小学校学級数 | 314 | 328 | 337 | 345 | 358 | 381 | 394 | 409 | 415 | 423 | 421 | 426 | 420 | 415 | 413 | 402 | 401 | 395 | 393 | 382 | 385 | 372 | 365 | 355 | 346 | 342 | 334 | 328 | 324 | 322 | 321 | 321 | 320 | 320 | 316 | 310 |
| 中学校学級数 | 137 | 142 | 146 | 150 | 156 | 154 | 158 | 163 | 171 | 176 | 181 | 194 | 202 | 204 | 200 | 203 | 203 | 207 | 205 | 203 | 195 | 194 | 193 | 189 | 186 | 176 | 170 | 167 | 161 | 153 | 147 | 145 | 152 | 148 | 150 | 149 |









# 苫小牧市における小中学校の地区別区分

現在の通学区域 小学校：黒実線

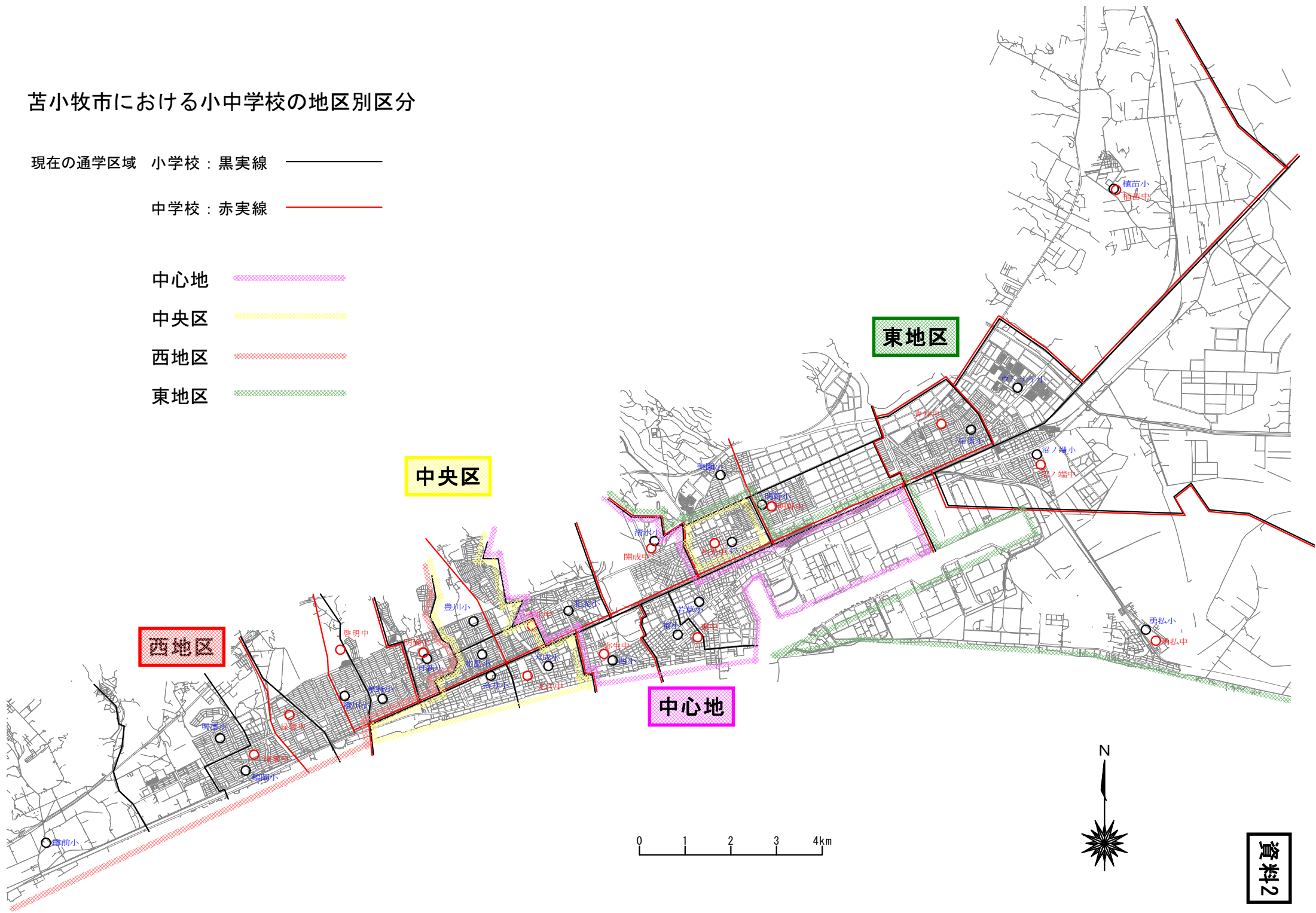
中学校：赤実線

中心地

中央区

西地区

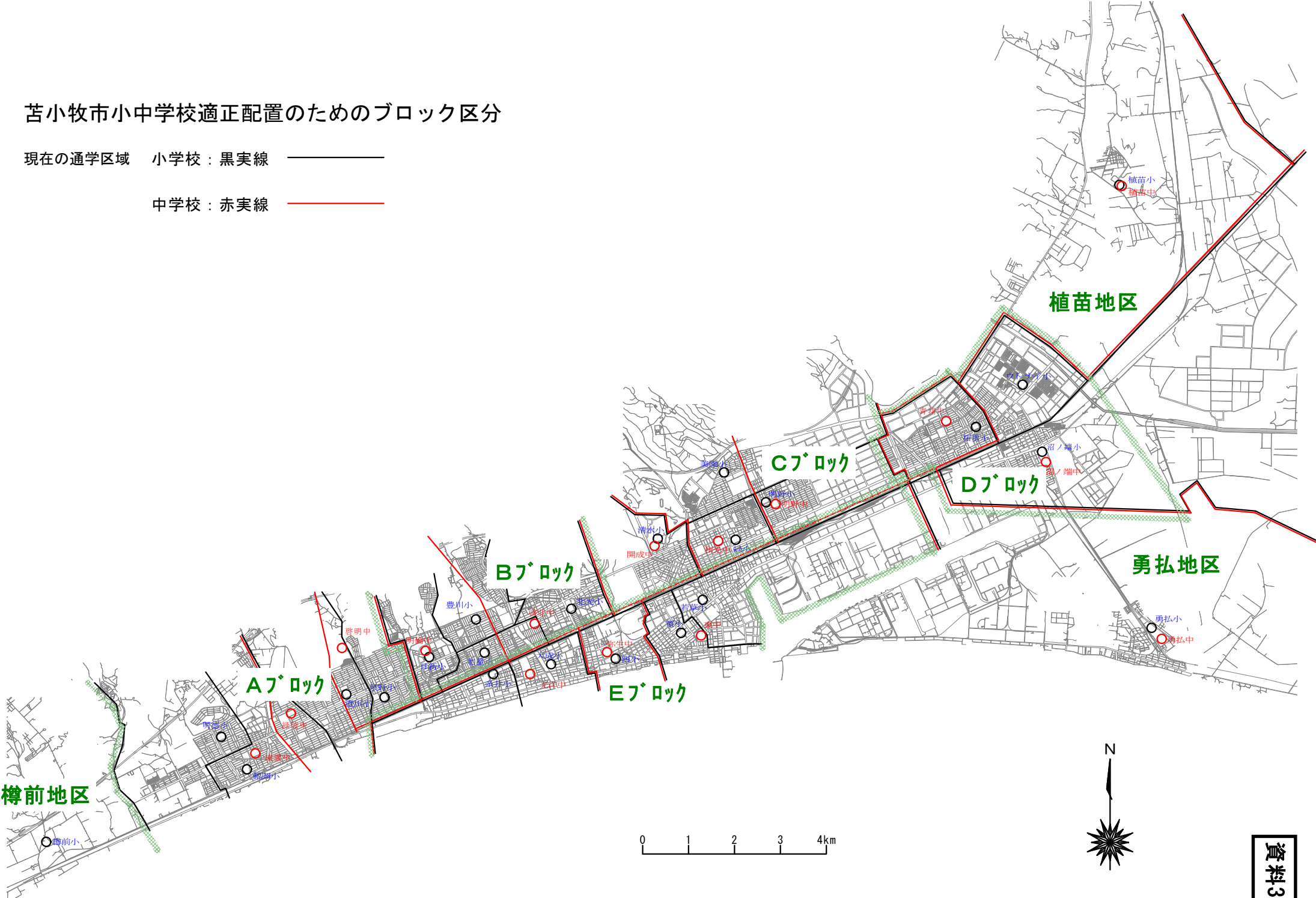
東地区



# 苫小牧市小中学校適正配置のためのブロック区分

現在の通学区域 小学校：黒実線

中学校：赤実線



## 苫小牧市立小中学校規模適正化検討委員会委員名簿

|      | 氏 名       | 団 体 名 称           |
|------|-----------|-------------------|
| 委員長  | 友 廣 久 之   | 苫小牧市PTA連合会        |
| 副委員長 | 橋 本 素 磊   | 苫小牧市町内会連合会        |
| 委員   | 阿 部 勲     | 苫小牧中学校区別生徒指導連絡協議会 |
| 委員   | 上 田 弘 政   | 社団法人苫小牧青年会議所      |
| 委員   | 大 村 千 佳   | 苫小牧市PTA連合会        |
| 委員   | 佐 久 間 賢 祐 | 苫小牧駒澤大学           |
| 委員   | 佐々木 和 夫   | 公募委員              |
| 委員   | 菅 野 嘉 一   | 苫小牧市子ども会育成連絡協議会   |
| 委員   | 高 橋 雅 子   | 苫小牧市民生委員児童委員協議会   |
| 委員   | 永 瀬 正 樹   | 苫小牧市小学校長会         |
| 委員   | 藤 川 和 信   | 苫小牧市中学校長会         |
| 委員   | 吉 崎 智 弥   | 公募委員              |